

REFRAMING
面白いに形を。私が変われば、世界が変わる。

ANNUAL REPORT
2019

REFRAMING

面白いに形を。私が変われば、世界が変わる。



一般社団法人大分青年会議所
2020年度 理事長

福嶋 菜

0 はじめに

stay hungry, stay foolish

アップルの創業者スティーブ・ジョブズ氏が、２００５年にスタンフォード大学の卒業式で卒業生へ贈った言葉です。自らが望むところに素直に向かいつけ、実現に値する面白い世界を構想し、それを現実のものにするためなら周囲の人からバカにされたとしても真っ直ぐに行動しつづける。エネルギーを生涯を通して世界を驚かせつづけたジョブズ氏の行動力に裏打ちされているからこそ、はなむけの言葉としての重みも増し、人生の指針として耐えるの説得力を感じます。この言葉が時代を超えて共感を得るのは、彼が時代の求めるものをただ提供するにとどまらず、時代の先を行き、人々が「面白い」と心を踊らせる未来を形にしたからです。そして、時を超えてもおろそかされない価値が、その根幹にあったからに違いありません。

青年会議所には時代に左右されない魅力的な価値が存在しています。日本青年会議所が綱領で掲げる「明るい豊かな社会」の実現です。綱領の最後を締めくくこの言葉は、１９６０年の日本青年会議所総会において制定されて以来、６０年にわたり、日本の全てのＪＡＹＣＥＥとともに、大分青年会議所も信じてきた根源的かつ普遍的な価値に他なりません。私たちも、時代に揺るがされない魅力的な価値を受け継ぎつつ、青年らしく爽やかに新しい風を起こすために、絶えず枠組みを再構築し、場合によってはあたり前と思っていたことを内部から壊しながら新たな構造を生成する脱構築を試みる必要があります。たとえ外から見て愚かに映ったとしても、自ら構想した明るい豊かなおわたいの未来の実現に向けて、「面白い」と信じるものを常に形にする挑戦をしつづけるのです。

あたり前を疑い、その意味を問い、自ら心をふるわせ情熱的な行動につなげよう。さあ、己の枠組みを変えよう。私が変われば、世界が変わる。

1 おおいたの価値を啓く

- おおいたでSDGsを誰よりも推進する
世界は、勝者が総取りする競争優位の社会から、SDGsが掲げる「世界を変える」ことに意味を見いだす社会へと、その枠組みを大きく変化させようとしています。SDGsは2030年のあるべき世界の姿を示すだけでなく、マーケットの将来像を示しています。世界の課題解決に注力すれば、ビジネスを通じて、世界を変えることができるのです。これは大きなビジネスチャンスでもあります。
世界標準の枠組みを私たちの行動を通しておおいたに示しましょう。ローカルとしてのおおいたの価値を啓くのです。それは、置いてけぼりをすることなく、誰もが豊かさを享受できるというSDGsの理念を体現してくれずす。
私たちは幸いにして日本青年会議所という良いロールモデルにも恵まれました。日本青年会議所は、時代の流れを先取り、「日本－SDGsを推進する団体になる」と高らかに宣言し、実行に移しています。大分青年会議所がおおいたで一番SDGsを推進する団体になり、私たちの手で、おおいたの明るく豊かな未来を築くのです。

- 共に歩むパートナーを戦略的に選び、結びつける
本気で世界を変えるには共に歩むパートナーの存在が必要です。すべての事業・活動において、世界を共に変えるパートナーを見つけましょう。大分市内の経済団体や企業、行政はもとより、政府や国際機関、世界を代表する大手企業や高等教育機関など、私たちが達成したい未来に応じて、協働できるパートナーは無数に存在しています。枠組みに制限はありません。パートナーとの連携は、相乗効果を生み出し、それぞれの活動にバリエージを効かせることになります。
私たちとの活動を通して、パートナーとパートナーが結びつき、新たな課題解決の枠組みが生まれることも期待されます。大分青年会議所がハブになり、「まちづくりのエンジン」としての存在感を高めるのです。パートナーとの結びつきを強化し、私たちの手で良質なコミュニティを再構築していきます。

- おおいたに共生社会の華を咲かせる
「元始、女性は実に太陽であった。真正の女であった。今、女性は月である。他に依って生き、他の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の月である。」
これは雑誌『青鞥』の発刊に寄せて平塚らいてうの辞です。ちょうど100年前の1920年、わが国で初めて女性団体が結成され、以後、女性の社会的進出や政治的権利は目覚ましい進歩を遂げました。とはいえ、一世紀の時を経て、我が国は世界から大きく遅れをとっています。
すべての人に世界を変える力があります。
自分には世界を変える力がある。世界に「私」がいる意味がある。
誰もがそう確信できる世界を思い描いてみてください。誰もが挑戦でき、誰もが活躍の場を見いだすことができる社会は、誰にとっても生きやすい社会であると私たちは確信します。誰もが太陽のように自ら輝く社会のために、大分青年会議所が、女性のエンパワーメントをはじめ、共生社会の実現に向けた取り組みに着手することに意味があるのです。

面白いに形を。私が変われば、世界が変わる。

技術や知識のイノベーションを起こす手がかりを与えてくれるのです。

思い起こせば、西洋音楽の演奏や舞台芸術の公演、西洋医学の手術も、我が国で初めて行われたのは当時市内と呼ばれていた大分市中心部においてでした。ただ伝来しただけではありません。日常の一部として受け入れ、文化として定着させたのです。障がい者スポーツの分野でも、大分市は先進地です。大分国際車いすマラソンは、世界初の車いすだけのマラソン大会としてスタートし、本年40回を数えます。おおいたは文化の多様性を尊重することで、地域を発展させ、平和と豊かさを享受してきたのです。

多様性は面白さの源です。東京オリンピック・パラリンピックも開催される2020年、スポーツや文化の交流をますます盛んにし、彩あふれる文化をおおいたに根づかせます。

4 おおいたから世界を変える人材を育成する

- 尖った才能が光る次世代リーダーを育む
強烈な憧れを抱かせる一流との交流は、尖った才能を開花させるきっかけを与えてくれます。最尖端の知識や技術に触れたときには、好奇心が掻き立てられるものです。憧れは原動力となり、好奇心は推進力を増幅します。早くから一流に触れることで成長への原動力は強化され、「面白い」ととことん追求することで成長のスピードは格段に速くなります。
世界は変えることができるという体験は、視野を広げ、あるべき未来のために課題を設定できる視座を育むに違いありません。人としての器も大きくなり、多くの人を惹きつける魅力的なリーダーを育てることにつながります。これまでになかった意味や価値観を提案でき、第4次産業革命により実現が目される「超スマート社会（Society5.0）」をひたばるリーダーを育成するために、才能を認め異彩を育てる環境を整えていきたいと思います。
大分青年会議所は、2010年から昨年までの10年間、おおいた活性化ネットワークを運営してきました。節目を迎え、新たな枠組みを生み出すときがきました。高等教育機関と大分青年会議所がしっかりと手を携え、おおいたから世界で活躍する次世代リーダーを育成する仕組みをつくります。

- OITAが循環型社会をリードする
美しい地球を子供たちに残す。これはいまを生きる私たちの使命です。子は宝です。私自身も2人の子の親となり、何気ない毎日の瞬間一瞬に幸せを感じています。子供たちの存在は未来を明るく照らし、子供たちの笑顔は世界を救うと、私は信じています。
世界は循環型社会へと確実に移行しています。環境問題や気候変動に対する世界の目は厳しくなり、プラスチックごみの問題は世界中で対策が求められています。世界で活躍する大企業はすでに脱炭素社会に向けてビジネスモデルを転換させてつづります。その対策を製造過程に限ることなくサプライチェーンを担うすべての業者に二酸化炭素排出実質0を求める企業もあるくらいです。循環型経済への移行は目の前に迫っているのです。
大分青年会議所は、子供たちの未来のために、循環型経済のローカルモデルを打ち出します。OITAが世界から愛される感じの好い都市となる未来を思い描き、日本の中小企業をおおいたから牽引するので、責任世代を自認する私たちが、子供たちに夢と希望を残すために、おおいたの企業や行政、教育機関や研究機関を巻き込んだ取り組みを開始します。

- 「できる」を持ち寄り未来の価値をデザインする
メンバー企業の持ち味や私たちの「できる」を持ち寄れば、面白いに形を与えることも、世界を変えることも、もっと容易になるはずです。
一人ではできなくても仲間が集まればできることがあると、私たちはJC活動を通じて経験的に知っています。この経験知を活用し、メンバーの「できる」を掛け合わせずる仕組みづくりを始めましょう。事業活動を通じて、社会課題を解決し、理想とする未来を実現する新たな価値をデザインするのです。取り組むべき課題が明確で、その解決が社会に与えるインパクトが大きければ、同じ社会課題に取り組もうとする企業や、行政や国際機関あるいは国内外を相手にする大手企業との連携も期待されます。
大分青年会議所がおおいたの企業と新たなパートナーをつなぐプラットフォームになる。世界をあつと言わせる新たな価値をデザインし、社会にインパクトを与え、おおいたを、世界を、もっと良い方向に変える、そんなエネルギーの溢れるユニークな一歩を踏み出すときが来たのです。おおいたが世界と一体化する状況をつくり、メンバーの本業を通じて「面白い」に形を与えて世に出していきたいと思います。

- 経済人として美意識を鍛える
現代は変化が激しく先が見通せないVUCA(ヴァカ)時代と言われ、その傾向は今後ますます強まっていくと予想されています。勇気を出して、通用していた常識や慣習を捨てなければならない場面、これまでよく出くわすようになるでしょう。このような時代だからこそ、私たち青年経済人は、いま、自らの美意識を鍛え、教養を深めることが求められています。
美意識は自分自身の内部にある規範でもあります。変化が速くかつ大きな時代、日々誕生する新しい製品や新しい技術を受け入れるかどうか判断するにあたって、外部のルールや基準だけを拠り所にしては、判断を誤ってしまうかもしれません。速く正確な意思決定には、自分自身の内なる規範に頼らざるを得ません。美意識やモラルが高いと、結果として実効がよくなるのです。
私たちの多くは経営者や管理職です。自社から新たな価値を生み出すために、尖った才能を開花させる環境を社内に整える必要もあるでしょう。業務を見直し効率化を図り、価値をデザインする時間を創出すれば、中小企業こそ生産性を高めることができます。大分青年会議所は、行政と連携し、メンバー企業の美しき改革をサポートしていきます。

5「組織」の枠組みを変えて強くする

- 本気の広報に挑む
インターネットはメディアのあり方を変えました。ソーシャルメディアの登場で、誰もが情報を発信できる時代となりました。言葉や絵、写真に加え動画も活用した情報発信は、「カッコいい」「可愛い」といった受け手の感性を呼び覚まし、共感の連鎖を生み出しています。青年会議所の広報も、情報伝達にとどまらない、共感の拡大こそ使命です。世界の潮流や青年会議所の活動をおおいたに提供する。逆に、おおいたを私たち大分青年会議所が日本全国・世界に向けて発信する。大分青年会議所が未活用メディアやパートナーとの連携を視野に入れ、おおいたのフクワクが増殖する新たな広報の枠組み構築が必要です。
広報は組織のブランディングでもあります。JCのイメージをもっとポジティブに変える、そんな広報戦略が重要です。大分青年会議所の取り組みをタイムリ良く発信する従来の機能に加え、青年会議所の魅力やLOMの枠組みを超えて多様な角度から広く伝えいくことにも挑戦すべきときです。面白い方法を試し、青年会議所の価値を正しく伝え、ブランドを高めるために、戦略的な広報に本気で挑戦します。

- 会員の交流を活性化する
儀式はある種のスイッチです。世界中のＪＡＹＣＥＥがＪＣＩクリード、ＪＣＩミッション並びにＪＣＩビジョンを唱和します。ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和は、日本全国の青年会議所で行われています。これらはＪＣＩや日本青年会議所が進むべき方向性を確認しあうだけではなく、声高らかにこれらを唱和する私たちはＪＡＹＣＥＥであると自らに刻み込み、唱和した瞬間からJC活動に進退するスイッチを入れることにつながっています。
会員全員でセレモニーを経験できる例会は、私たちがＪＡＹＣＥＥであると感じ、一体感を高める月に一度の貴重な機会です。私たちの人生やおおいたを豊かにする知恵や知識を学び、青年経済人としての経験を重ね成長できる大切な場でもあります。例会こそLOMの最も重要な事業です。メンバーの豊かな個性と美点到光をあて、例会をもっと面白くする必要があります。ＪＡＹＣＥＥとして襟を正し、経済人としての学びに満ちた機会とし、誰もが参加しやすい環境と友情を育む交流を促す工夫を用意しましょう。

まずは例会から、面白いに形を与える絶好の機会とするのです。

- 生産性の高い会議を創る
「会議」なくして青年会議所の活動語ることはできません。委員会をはじめ、理事会や常任理事会と各種会議が開催されています。総会や例会も会議と言えます。試行錯誤を繰り返し、開催が待ち遠しくなる生産性の高い会議をつくっていかねばなりません。
会議には様々な役割があります。各々の日々の活動を確認し合う場であり、情報共有を行う場でもあり、アイデアを出し合う場でもあれば、組織として決定を行う場でもあります。会議所の名に恥じぬよう、役割に応じた適切な会議手法を果敢に取り入れ、会議の質を高めていきたいと思います。
私自身は会議にも「呼吸」があると考えています。呼吸の「呼」は吐き出すという意味で、「吸」は文字通り吸うの意味です。話し合いでは、アイデアや意見を吐き出し合う発散のプロセスなくして、意見を収束させる合意形成は良いものになりません。量は質に転化します。発話の総量が多い会議は質の高いアイデアが増え、良い合意に到達しやすく、結果として決定までのスピードも速めます。日々の会議を通じて、会議の生産性を高めるファシリテーターとしての素養を高めていきたいと思います。
- 思いやり溢れるコミュニケーション
青年会議所が大切にしているものの一つに膝をつき合わせたコミュニケーションがあります。それは言葉だけでは伝わらないものに重きを置いているからに他なりません。
人に惜しみなく与える人は、真つ先に自分の利益を優先する人や損得を計算する人よりも、人生に成功しやすく幸せな人生を歩むと言われています。相手が何を必要としているのかを考え、先回りをし、周囲の人が活動しやすくなるように貢献する。そんな惜しみない思いやりが感動を与えます。細かな心遣いを忘れずに、相手の期待を上回り感動が生まれたその瞬間、その相手にとっての「大分JC」は、目の前に自分に惜しみない思いやりを与えてくれるその人となるのです。
リーダーの重要な役割の一つに、人の心を動かし、行動を引き起こすことがあります。人の心を動かすにはまず、自分のものの見方を相手の目線に合わせることも重要です。それは、私たちにとって、自分の枠組みを変え、新たな視座を手に入れることにもなります。一歩先を見据えた思いやり溢れるコミュニケーションを実行に移しましょう。

- JAYCEEを拡大する
JCは上質な場所を提供してくれます。自分だけではとどろきやが難しい見晴らしの良い場所から遠くを見渡すことだってできます。JCの出会いは私たちの人生に彩りを与えてくれます。すべては全国各地、世界各地で信用を積み重ねてきた、青年会議所の歴史のおかげです。
一方で、JCの存在が他の団体と区別できないJCのコモディティ化という現実、全国各地の青年会議所が危機感を募らせています。しかし、このコモディティ化の認識は事実に戻しています。JCだからできる、JAYCEEだから容易になることは山のようにあります。JCにいないこと、JAYCEEであることには意味があります。願えば願うだけ成長の機会が約束されているJCという質の高いコミュニティは、自らの成長を願い地域を愛してやまない若者に、未来にわたって分け隔てなく開かれておくべきです。会員拡大はおおいたの未来に対する責任なのです。
仲間とともに成長でき、本気の力でおおいたを盛り上げる団体、それが大分青年会議所です。JCが魅力的で上質なコミュニティである真実は、メンバーがJAYCEEであることを楽しむ姿に写し出されます。私たちこそJCの可能性を追求し、JAYCEEをもっともっと楽しみましょう。それこそが仲間を増やすのです。

6 結びにかえて

私には信じている言葉があります。
「しあわせだから笑っているのではない。むしろほくは、笑うからしあわせなのだ」
これはフランスの哲学者アランの『幸福論』の一節です。
笑うという行為は、ふつう、何か面白いことや幸せなことが先に存在していて、その反応として起こるものと考へられます。しかしアランは違います。笑うから幸せだと感じると言うのです。
私は、この行為が感情を惹き起こすという現象を信じています。
だからこそ、どんなときも、仕事も家事もJCも、私は、楽しむようにしています。
楽しそうすると、最初はそのとは思っていないくても、どんどん楽しくなっていくのです。
私自身は、JCにいないければ経験できないこと、JAYCEEだからできることを、目一杯楽しむ機会に恵まれてきました。
先日、日本JCに出向していたときの仲間たちと宮古島を訪れました。
「宮古ブルー」と称される海は、泳ぎからっきしダメな私でさえ、思わず飛び込んでしまうほどの美しさでした。仲間には誘われなければ、苦手な海に入ったり、ましてやシュノーケリングに挑戦したりしなかったでしょう。そして新しい世界を知ることもなく、いまにいたっているはずです。
国際アカデミーでは、アフリカのマリという国から来たデリゲイツとパディを組みました。お互いが英語を母国語とせず、意思疎通はiPhoneが頼り。
にもかかわらず、彼との間にはかけがえの無い友情が生まれ、パディが発表されたその瞬間まで知らなかったマリを訪れる日を、私はこれからの人生の楽しみの一つとして心待ちにしています。
事業にお越しいただくために福岡市長に会いに行ったこともありました。
県庁に足繁く通う日々も過ごしたこともありです。
当時の理事長とふたりっきりで街頭募金をしたときや、事業終了直後にサプライズで結婚式をするために奔走した瞬間もありました。
長岡の火花のすごさに圧倒されたことも、
公益法人会計に詳しくなったことも、
茶道のお稽古を始めたのだってJCのおかげです。
ここに書ききれないほどの機会をJCは私に与えてくれました。
そして、そこには必ず仲間の姿がありました。
私は実にJCで仲間と機会に恵まれました。
全ては面白がつて目の前のJCに向き合っていたからだに信じています。
面白がつてやってみることで、実はそう感じていなかったことだって、じわじわ面白くなってくるものです。もともとってJCを面白がつて人生の歩みを進めていきませんか。

さあ、「面白い」に形を与えよう。
私が変われば、世界が変わる。

基本方針

1 おおいたの価値を啓く

2 おおいたから面白い未来を構想する

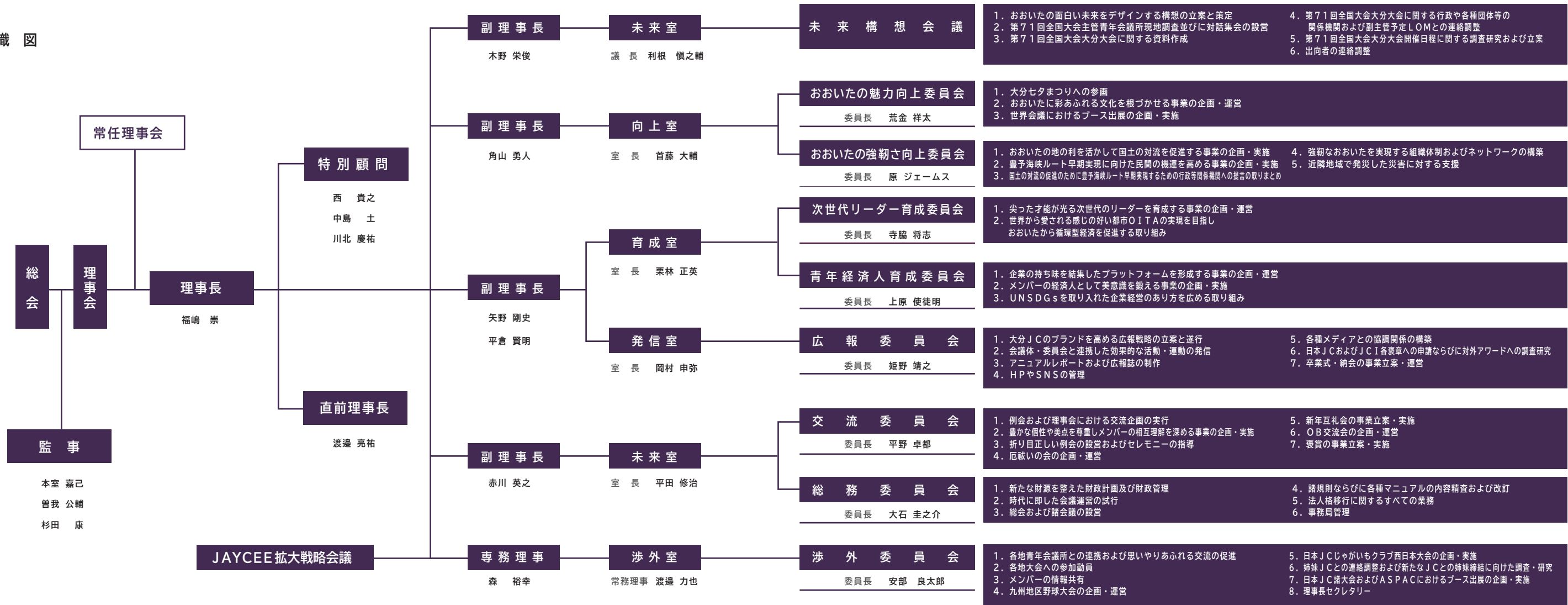
3 おおいたの豊かさを向上する

4 おおいたから世界を変える人材を育成する

5 枠組みを変え組織を強くする



組 織 図



理事・役員一覧

理事長 福嶋 崇	副理事長 赤川 英之	副理事長 矢野 剛史	副理事長 角山 勇人	副理事長 木野 栄俊	副理事長 平倉 賢明	専務理事 森 裕幸
直前理事長 渡邊 亮祐	特別顧問 西 貴之	特別顧問 中島 土	特別顧問 川北 慶祐	監事 本室 嘉己	監事 曾我 公輔	監事 杉田 康
常務理事 渡邊 力也	議長 利根 慎之輔	室長 首藤 大輔	室長 栗林 正英	室長 岡村 申弥	室長 平田 修治	
委員長 荒金 祥太	委員長 原 ジェームス	委員長 寺脇 将志	委員長 上原 使徒明	委員長 姫野 靖之	委員長 平野 卓都	委員長 大石 圭之介
					委員長 安部 良太郎	



一般社団法人大分青年会議所
2020年度 理事長

福嶋 崇

Progress 2020 -2020 年への歩み-

おおいたが九州の出入り口になる。
大分が日本中から選ばれる都市になる。
O I T Aが世界から愛される街になる。

2020 年の大分青年会議所は、そんな明るく豊かな大分の未来を本気で実現しようと考えています。
そのために、いま、私たちに、何ができるのか。

世界は持続可能な未来を残すために地球全体で社会課題に向き合おうとしています。
世界の枠組みは変わろうとしています。日本の枠組みが変わるでしょう。
そして九州の、大分の枠組みも変わる。
私たちだって、いまの枠組みのまま留まることはできません。

当たり前と思っている常識や無自覚にとらわれている固定観念を疑い、
自分たちが面白いと感じるものを素直に形にしてみるのです。

大分の未来を輝かせ、持続可能な地球を実現するために、自分たちの殻を破ろう。
面白いに形を。私が変われば、世界が変わる。



一般社団法人大分青年会議所
2019 年度理事長

渡邊 亮祐

Looking back on 2019 -2019 年を振り返って-

「次代を切り拓く先駆者となれ!」をスローガンに全会員と共に一年間駆け抜けて参りました。当たり前のことを、ただ当たり前のよう引き継ぐのではなく「なぜ何のために」「誰のために」に行っていることなのかを見直し組織の構築をして参りました。本年度は青年会議所においてSDGs元年と言われ、今までの事業にSDGsを紐付けし発信することはもとより、学生を巻き込みSDGgirl'sを結成し、行政・市民へ向けてSDGsの意義を様々なかたちで広く発信し広めるなど、認知度の向上へ大きく貢献を致しました。また、ラグビーワールドカップ2019日本大会が、地方都市として唯一準決勝を含む5試合をこの大分で開催し、県内外や外国人観光客が多く訪れ、その方たちに向け日本の文化を広く発信することができ、今後の大分へのインバウンドへつながる一助となりました。我々の運動は「ひとつくり」「まちづくり」を通して、大分の市民へ発信をして参りました。本年度も次代を生きる青少年たちに、やればできる!という体感をしていただき自己肯定感へとつながる事業を発信致しました。そして、「大分七夕まつり」事業においても二日目のフィナーレをシャボン玉と大幅に変化し、市民とともにまつりを作り、様々な演出から大分市民の夢を応援する大きなインパクトを残すことができました。青年会議所は、常に何事にも挑戦ができる団体だと思います。その先にまだ見ぬ結果があり、そこに今までなかった気付きや成果があるから、視野が広がり我々は成長できるのだと思います。引き続き本年度も多くの出向者を輩出し、各地において様々な経験や学びを得て、この大分に新たな気付きを与えていただきました。これから先も、挑戦する人たちの可能性を広げるために、そして大分青年会議所が、この大分に必要とされ続けるために、団体として大きな挑戦への道を進むことを決めました。「この大分を今よりも良くしたい」その想いで、2022年 第71回 全国大会 大分大会の主管青年会議所としての承認を頂き、これからは主管青年会議所として、開催へ向け一層の協力体制の構築を目指していきます。

今後いつ起こるか分からない災害に対し、我々団体として何ができるかを考え、新たな協力体制として公益社団法人松山青年会議所との防災協定を締結する運びとなりました。両青年会議所の抱える問題点を補い、豊予海峡などを今後の発展のために今、民間としてできる交流を積極的に行い両県の発展に寄与して参ります。

2019年度多くの方に支えられた一年であり、変化や課題に対し積極的に真正面から向き合い、そして、ご協力ご支援を頂きました全ての皆さまに心より感謝を申し上げます。



連携室

常務理事
木野 栄俊
HIDETOSHI KINO

新しい元号の時代を迎えるにあたり、青年会議所を取り巻く環境も日々変化しています。それに伴い組織に求められる社会の要請は迅速化・高度化・複雑化しています。我々の理念である「明るい豊かな社会」を目指すためには、今までの組織マネジメント方法ではなく、新たな手法で次代を切り拓き組織力を発展させなければいけません。そのためには大分青年会議所が引き継いできた結束力を向上させ、柔軟で迅速な対応ができるよう連携を強める必要があります。

大分青年会議所が展開する運動をより効果的なものにするために、メンバー全員の連携を強め、如何なる状況にも対応できる基盤を作ることが重要です。その上で時間を有効に使って議論が行えるよう、綿密な事前準備を行い効率の良い運営を行います。そして、本年度だけではなく、先を見据えた我々の運動の軸となる財政管理を厳格に行い、透明性を確保しメンバーから預かった会費を

有効に活用していきます。また、一つひとつの運営の意味を理解し、運動や活動しやすい環境を整え、効率の良い運営に変えていくことで組織力を向上させていきます。

出向での出会いや気づきは出向者だけでなく大分青年会議所にとっても、ステップアップの機会をもたらしてくれます。出向者は大分青年会議所の代表として出向するため、メンバー全員が当事者意識を持ち、心ある支援を行い、多くのメンバーをリードしともに参画します。そして、各種大会への参加に自ら率先して意欲が湧くように、今まで以上に活気溢れる交流を行います。また、横のつながりをさらに強化しメンバー同士のつながりを深める手法を取り入れ、積極的に参加できる設えを創出します。

連携室は、大分青年会議所の核となり、常に先を見据え、アンテナを張り巡らせ、まずは自らが率先して行動し実践します。その姿を見たメンバーを惹きつけ、仲間とともに友情を育み、新しいことに積極的に挑戦し次代の先駆者となります。



総務委員会

6月例会「新たな挑戦」模擬対話集会



委員長
平田 修治
SYUJI HIRATA

実施事業・例会
6月例会
「新たな挑戦」模擬対話集会

我々大分青年会議所は、今日までルールに則った規律ある運営とともに、様々な活動・運動を展開してきました。しかし、急速な情報技術の発展の中で生じる弊害もあり、大分青年会議所が活動・運動を機能的に展開していくためには、規律ある組織マネジメントの守るべきものは守り、時代に即した新しいシステムへの変更や、柔軟で迅速な対応ができる仕組みを構築する事が現在の組織を支え、次代へ繋げていくために必要ではないです。大分青年会議所として厳格な運営を維持し、連携をさらに強めていくためには、限られた時間を有効に使う事前準備が重要です。まずは、新たな3つの取り組みとして、議案書フォーマットの変更・理事会3日前からはじまる事前協議の実施・議案上程票アジェンダシステムの導入をし、定められた時間での意見集約を効率的且つ効果的に行い規律ある諸会議を目指します。議案書の公開や閲覧をスピーディーに行うことが出来る環境を整えることにより、理事だけではなく、全メンバーの価値観の共有を図ることができ、組織の連携を強く

します。また、縦だけでなく横の連携を強める例会企画を実施し、メンバー全員の連携強化を動機づけます。そして、我々の活動・運動の軸となるメンバーから預かった大切な会費は、適正な予算組みを行い厳格かつ正確な財政管理を行います。財政管理において重要になる会員拡大目標5名は必達です。さらに、青年会議所の最高意思決定機関である総会では、入念な事前準備による企画運営で一人でも多くの動員をし、会費がどのように使われているのかをメンバー一人ひとりに対して明確にし、透明性を確保します。総務委員会は、我々大分青年会議所がさらに飛躍するための軸となり、全メンバーが素晴らしい活動・運動を展開していくための連携が出来るように誠心誠意支えます。次代を切り拓く先駆者として新たな挑戦をし、後世にも進取の精神をつなぐべく、新しい仕組みの構築を実現します。



渉外交流委員会

10月例会「自己分析で自分診断～自分の性格を知ろう～」



委員長
寺脇 将志
MASASHI TERAWAKI

実施事業・例会
3月例会
2019年度会長公式訪問例会
LOM×ブロック～SDGsの関係を学ぼう～
10月例会
「自己分析で自分診断～自分の性格を知ろう～」

社会の情報化とコミュニケーションツールの発達により、便利になった反面、直接対話する機会が少なくなり、人と人との交流が希薄になりました。その影響は大分青年会議所にも至っており、モチベーションの差、当事者意識の差を大きくし、会員同士の意識の格差を生じさせています。その差を埋め、会員相互の結束力を高め、連携を強める事が、組織力を向上させる上で必要です。

今年度も、多くの出向者が大分青年会議所から輩出されます。出向者は大分青年会議所の代表として活躍されますので、出向に対してメンバー全員が当事者意識を持てるよう、渉外交流委員会メンバーが各地へ出向し、メンバーに背中を見せる事で、当事者として出向の魅力を伝え、出向者の立場から会議、セミナーへの積極的な参加を促進します。各地大会は、参加したメンバーに多くの学びと気づきを与えてくれます。各地大会の情報・魅力を常に収集し、迅速に配信することで、メンバーの日程調整をしやすくし、多くのメンバーを巻き込み、意欲的に参加する事で会員交流、出向

者支援に繋がります。そのため、渉外交流委員会がリーダーシップを取り、行動することでメンバーを惹きつけ、メンバー同士の繋がりを創出します。大分青年会議所が力強い運動を発信する為には、会員相互の連携が不可欠です。例会では、会員同士が膝を突き合わせ、語らい合い、交流できる企画を立案します。交流会では、メンバー一人ひとりが意欲的に参加してもらえよう、委員会の枠を超えた企画で交流する事でメンバー同士の繋がりを強化し、当事者意識を高め、会員相互の連携を図ります。

渉外交流委員会は、常にリーダーシップを発揮し、大分青年会議所メンバーを牽引していきます。率先して行動する背中を見せることでメンバーを惹きつけ、積極的な会員交流により、大分青年会議所の連携を強化し、次代の先駆者として邁進します。

MEMBER

委員長
平田 修治
副委員長
荒金 祥太
志賀 飛太

委員
阿南 築 小山 統之
梅本 哲平 酒井 裕一郎
河野 貴治 軸丸 栄俊

MEMBER

委員長
寺脇 将志
副委員長
清藤 卓治
平野 卓都

委員
内野 兼一 西林 勲二
小野 鉄平 山本 貴史
宋 成国



人財室

室長
矢野 剛史
TAKESHI YANO

1953年に産声を上げた大分青年会議所も本年度66年目を迎えます。その間、600名を超える先輩諸氏が日夜、大分の「明るい豊かな社会」を創造するためご尽力してこられました。この輝かしい歴史を70周年、80周年へと紡いでいくため、そしてこれからも自ら先頭に立ち、大分とともに歩み続けていくためにも、我々の活動・運動に共感する仲間を増やすとともに我々自身もさらに自己研鑽に努める必要があります。

「人は力なり」。組織において人が全ての基本と言われる中、メンバー数の減少は食い止めなければならない喫緊の課題です。メンバー数の増加は組織の活性化につながると同時に、明るい次代を切り拓くための大きな活力となります。今こそ、メンバー一人ひとりがこの課題を我が事と捉え大分青年会議所のスポークスマンであると自覚し、これまで以上

に幅広い拡大活動を実行し、多くの青年たちに共感を得る必要があります。50名という目標人数を必ず達成するための旗振り役となり、これからも魅力ある組織となる基礎を創ります。

多くのメンバーが「人とのつながり」や「自己研鑽」を求めて、大分青年会議所に入会しています。年齢や在籍年数といった垣根を越え、日頃の生活では得ることのできない学びの機会を提供し、メンバーの結束をさらに深めます。その中から新たな経験、気づきを生みメンバー全員の自己成長につなげます。世の中の流れが早い今こそ、スピードの変化を恐れることなく自身の成長も加速、さらに昇華させ大分青年会議所がこれからも大分・日本・世界を舞台に、

先駆者となるべく活動・運動ができる風土を醸成します。

人財室は、人と人をつ結びつける懸け橋になります。新たに入会するメンバーも含め、全員に同じベクトルを持たせ、その関係性をより強固なものにしていきます。人という無限の可能性を秘めた力で大分青年会議所に大きく色鮮やかなアーチを描く活動・運動を展開していきます。



共感拡大委員会

異業種交流会



アカデミー委員会

アカデミー事業「ザ・ジャッジ～閻魔大王に聞いてみよう～」



委員長
首藤 大輔
DAISUKE SHUTO

実施事業・例会
2月例会
「拡がれ！共感の輪～大分青年会議所のススメ～」
8月例会
「OB交流例会」

昨年度、大分青年会議所は創立65周年という節目の年を迎え、次代に向かって、66年目の新たな一歩を踏み出しました。しかしながら、今年度より3年間で、実に59名ものメンバーが卒業を迎えます。組織においては人が全ての基本となります。次代への更なる飛躍の先駆けとなる為にも、現状を真摯に受け止め、メンバー一人ひとりが会員拡大の目標に向かって自ら行動し、新たな共感の輪を広げていくことが重要となります。

まずは、現役メンバー全員が、自ら率先して会員拡大に努めていけるよう、本年度は各筆頭副議長・委員長が委員会メンバーとして共に活動します。それぞれが責任を持って、拡大状況を常に把握し、報告してもらうことで、最新の情報を共有することが可能となります。会議体・各委員会の会員拡大5名必達という目標を成し遂げるためにも、拡大について大分青年会議所全メンバーを巻き込んで注力できる時間を割いていけるよう連携し、拡大計画を構築します。そして、メンバー全員が拡大活動を行っていく際の、勧誘方法や、本

年度の入会の流れについて理解を深め、一人ひとりが大分青年会議所の広告塔となることの自覚と責任を持って、拡大活動に邁進していけるための例会を企画します。さらに、現役の女性メンバーの視点も取り入れ、各方面で活躍する女性に積極的な拡大活動を行うことにより、女性会員の拡大も行っていきます。また、会員拡大においても多大なるご協力を頂いている先輩諸氏に、本年度拡大状況の経過を発表し、拡大活動についての助言、更なるご協力を頂く為の交流の時間を構築すべく、OB交流例会を企画します。

共感拡大委員会は、50名という大きな目標を成し遂げる為にも、自ら率先して行動していく意識づけを行う旗振り役となります。キャピタルLOMとしての誇りを持ち、メンバー全員が熱意のある拡大活動を行うことで、一生の付き合いができる仲間と出会う絶好の機会を創出します。



委員長
生野 裕一
YUICHI SHONO

実施事業・例会
会員開発事業
「目指そう頂点！～登山は人生だ～」（悪天候で中止）
アカデミー事業
「ザ・ジャッジ～閻魔大王に聞いてみよう～」

大分青年会議所には毎年新たなメンバーが入会し、組織の新陳代謝が継続的に行われています。これにより、時代や地域の実情に即した青年経済人としての活動がスピード感をもって行われ続けています。その一方、メンバーであれば知っておくべき知識、持ち合わせておくべき心構えには不変のものがあり、これらが継承され大分青年会議所の活動の基礎になっています。そこで、これら要素を新たなメンバーに伝えていくことが我々の使命です。

メンバー各人が青年会議所とはいかなる目的・性質を有する団体であるかを理解するため、新入会員開発マニュアルと結びついた資料を繰り返し参照できる環境を構築します。これにより、新入会員にJAYCEEへの扉を開き発展・成長の機会を提供するとともに大分青年会議所の組織力の強化を図ります。次に、多くのメンバーが大分青年会議所入会時に期待している「人とのつながり」や「自己研鑽」を具体的な形にすべく、コミュニケーションの阻害要因にもなり得る物を使用困難

な非日常的環境下において、メンバーが互いに協力し合わなければ目的を達成することができない場を設けます。これにより、メンバー相互の理解を強固なものにすることに加えて各人のリーダーシップを養い、地域はもとより日本・世界に必要とされる人財育成の一助にします。最後に、新入会員が入会間もない時期から主体的に活動できるようにするため、自分たちが中心となってメンバーの交流を深める活動を企画・立案・実践します。これにより、新入会員が大分青年会議所メンバーであることの自覚を高めるとともにこれからの大分青年会議所の活動の人的基礎を構築していきます。

アカデミー委員会は、委員会メンバー全員が主役となって活動・運動を展開することでLOMメンバー相互の関係を密にしていきます。そして、現在・これからの大分青年会議所の活動を支えていけるリーダーシップ溢れる意欲的な人財の源泉となります。

MEMBER

委員長
首藤 大輔
副委員長
大石 圭之介
小野 未希

委員
加藤 喬志
柴田 伸吾
那賀 有之介
森永 竜太

筆頭副議長・委員長
8名配属

MEMBER

委員長
生野 裕一
副委員長
衛藤 博昭
加来 辰彦

委員
秋月 洋祐
安倍 武宏
池永 優
遠藤 悠介
大友 優
岡本 将英
川野 直樹
木村 文大
桑原 健
古賀 麻衣子
後藤 竜之介
近藤 希望
佐藤 康平
高野 和水
多久島 昌弥
田中 智浩
原 裕太
姫野 哲也
淵 貴史
光延 剛
村岡 定昇
安永 満
山田 将司



潜在室

室長
渡邊 力也
RIKIYA WATANABE

我々は、これまで生活物資にも自然環境にも恵まれ豊かな生活を過ごしてきました。しかし、近年は気候変動が猛烈なスピードで深刻化する中、災害も多発し、人々の資源の使い過ぎにより天然資源も枯渇の一途をたどっています。また、地域経済の衰退は加速し、人口の減少や財政状況の悪化は切実な問題であり、経済を圧迫しています。美しい地球を次代の子どもたちに引き継ぐためにも、より良い環境と経済の発展が急務です。

2030年を期限に持続可能な環境と社会の構築を目指し、まずは捨てるという概念を捨て、ゴミをゴミと考えずにとことん活かし、不可能を可能にするリサイクルでゴミをゼロにする運動を展開します。さらに、地球温暖化によっておこる気候変動への対策として、エネルギーの無駄遣いを改めるために地域の一人ひとりに対して意識改革を起こし、温暖

化が持続的に緩和できる運動を展開します。また、突然の災害に対応できるように、これまでの運動を活かし、事前の対策と、自助と共助のネットワークを広域的に構築します。

本年度は、ラグビーワールドカップ2019日本大会が開催されます。これまで大分青年会議所はラグビー関連事業を多く開催してきました。大分の経済発展のために、これまで積み上げてきたものを存分に活かし、成功に導く一翼を担うことで大分青年会議所が行政・各種団体との連繋を図ります。そして、この絶好の機会を今後のインバウンド増加につなげるため、大会当日のみならずPRイベントにも積極的に参画し、国内外の来県者にもう一度訪れていただ

けるような大分の魅力を伝える県都発信事業を展開します。潜在室は、限界突破をコンセプトに、次代の全ての子どもたちのために持続可能な社会を引き継ぐつなぎ人となります。環境と経済の両側面から、大分青年会議所だからこそ達成できる魅力あふれるまち大分を目指し、大分が日本一訪れたくなる地域となるよう運動を展開していきます。



SDGs推進委員会

SDGs推進事業「SDG Girl'sコレクション～大分から世界が変わる～」



県都発信委員会

4月例会「Regular meeting planning～Japanese O・MO・TE・NA・SHI～」



委員長
杉田 康
KOU SUGITA

実施事業・例会
5月例会
「もし大分の企業がSDGsを経営に取り入れたら～SDGs(エスディー・ジーズ)のトリセツ～」
SDGs推進事業
「SDG Girl'sコレクション～大分から世界が変わる～」

近年、先進国の大量生産や大量消費が要因のひとつと言われる地球温暖化が深刻化し、それに伴う自然災害も増加している中で、多くの市民や企業が環境問題や防災活動に取り組んでいます。気候変動による問題をすべての人が我が事として捉え、これまでの運動をさらに効率よく加速させる必要があり、いつ起こるかわからない自然災害に対し、一人ひとりが事前の対策を身につけると共に、災害時における支援者の拡大が必要です。

まずは、急速な地球温暖化に対するメンバーの意識を高めるために、SDGsの目標に深く関係する環境問題とその解決に向けた企業活動の重要性を知ること、大分青年会議所が主導して行う運動にメンバーが率先して率先して参加します。そして、メンバー全員と多くの企業に参画してもらうために、まずはメンバー所属の企業からSDGsの取組みを市民や行政に発信し企業の社会的な存在価値を高めることにより、大分青年会議所の存在価値も高まります。さらに、環境問題の解決に向け運動を拡大するために、高校生にSDG

sの目標と我々の運動を知ってもらいSNSで拡散してもらうことにより、若い世代から運動を起こします。また、メディアを通しSDGsに対する我々の運動と重要性を拡散することで、運動を見た多くの市民へSDGsの重要性を伝えます。そして、市民とメンバーに災害対策の重要性を伝えるために、家庭や会社で普段からすべき備えと災害時の行動を学ぶ公開例会を構築し、防災意識の向上と大分青年会議所が行う支援活動の拡大に繋がります。さらに、会員拡大5名という目標をメンバーが一丸となって達成することで、より影響力のある運動にします。

SDGs推進委員会は、市民、学生、企業が連携する持続可能な未来へ向けた運動の火付け役として、常に自らを高め、感謝のこころを持ち続ける仲間と「誰一人として取り残さない社会」を実現するための礎になり、次代を切り拓く先駆者となります。



委員長
利根 慎之輔
SHINNOSUKE TONE

実施事業・例会
4月例会
「Regular meeting planning～Japanese O・MO・TE・NA・SHI～」
県都発信事業
「また来て♪大分 O・MO・TE・NA・SHI・MUSIC」

一昨年、大分市の人口が減少に転じ36年間で初の18市町村全てで減少となりました。これにより影響を最も深刻に受けるのは経済であり、地域の生産力低下はすでに足元で起きています。本年度はラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、大分市にとって非常に重要な意味を持ちます。国内外のラグビーファンのみならず多くの観光客やメディアが大分に訪れることで、インバウンドと交流人口の拡大により地域の活力と潤い、賑わいが必要です。

まずは、同大会に対する興味関心をさらに高め、積極的に足を運んで頂くため、ラグビーの魅力を知り、さらに身近に感じてもらう例会を企画、運営することで、試合当日の動員につなげます。そして、同大会が開催されるこの期間を絶好の機会と捉え、おもてなしの心を持って大会を成功に導くと共に、多くの人が大分の文化や魅力に触れることで、もう一度大分に訪れてもらえるような画期的な運動を展開します。さらに、多くの市民を巻き込む運動でこれまで大分青年会議所で培った

ラグビー関連事業の活動と功績を存分に活かし、行政、各種団体と密に交流を図ることで、ラグビーワールドカップ2019日本大会を支援し、大分青年会議所の価値を高めます。また、まちづくりの観点から、官民協働による連携、情報交換を図り、ラグビーのPRイベントにも積極的に参画することで、県外、そして世界に大分の魅力を最大限発信し大会成功の一翼を担います。そして、同じ目標に向かってともに邁進する同志を募り、会員拡大目標5名を達成することで、大分青年会議所の組織力の強化に努め、積極的な変革を創造する機会を提供します。

県都発信委員会は、ラグビーワールドカップ2019日本大会の成功をきっかけに、青年会議所だからこそ発信できる運動で大会後も継続的な経済効果を創出します。多くの人が大分の魅力に触れる機会を演出し、地域発展の起爆剤となり経済波及効果を持続させます。

MEMBER

委員長
杉田 康
副委員長
栗田 圭
平野 和敏

委員
上原 使徒明
尾崎 宏次
今朝丸 貴
斎藤 秀行
佐藤 孝昭
生野 佑侍

MEMBER

委員長
利根 慎之輔
副委員長
佐々木 竜一
佐藤 達哉

委員
安部 良太郎
池田 修平
岩尾 大輔
佐藤 晃央
二宮 雅喜
東村 達也
前田 亮
丸山 陽一郎



郷土室

室長
角山 勇人
HAYATO KAKUYAMA

九州1位のものづくりの町であり、山と海に囲まれた自然豊かな大分は、都市と自然が融合した東九州の要衝です。大分に転動した方々が大分を離れる際に「大分の二度泣き」という言葉を口にするほど住み心地が良く、生活する上では魅力に溢れています。しかし、県内の新規学卒者の県内就職率は低下し、若者の県外流出が目立ちます。地域活性化のため、大都市に勝るさらなる魅力を創造し、若者や子どもたちが未来に夢や希望を持てるまちづくりが必要です。

子どもたちが夢や希望を胸に抱いたときに、その道を邁進するために、こころの豊かさを持っておく必要があります。そのこころを育むために、自己肯定感を高め、周囲との関係を築く力と状況の変化に気づく力を養う機会を創出します。また、親のこころの持ち方

が子どもの将来に影響することを親が理解する必要があるため、子どもと親の共育を通じて、子育てへの意識向上を促します。さらに、仕事や青年会議所運動に邁進する我々の活動を家族に共感していただき、お互いの理解を深め、密度の濃い親子関係を築くための例会を開催します。

近年の大分七夕まつり事業は、恒例の風船リリースをはじめ、市民が笑顔になる企画を創造してきました。本年度は、規模や時間だけでなく、内容のスケールアップを図り、全国的に認知度の高いまつりを目指した中期計画を作成します。そして、後世に引き継がれる大分独自のまつりを創造します。また、10年目を迎えるおおいた活性化ネットワークは、将来、学生が自主的に地域活性

化に取り組めるように、我々が先導者となり、学生とともに地域の魅力や問題をもとに、地域活性化の運動に取り組みます。

郷土室は、今後の子どもたちの成長と地域発展の礎となる運動を展開し、次代を担う学生や子どもたちが自らの将来に邁進できるこころを育て、地域社会を引き継ぐ意識を芽生えさせるとともに、市民がさらに愛することのできる故郷を構築します。



次世代育成委員会

次世代育成事業「子どもチャレンジカップ～できたがつくる！明日のできる！～」



地域活性化委員会

七夕ブロードウェイ2019～星空のキャンパス～



委員長
曾我 公輔
KOUSUKE SOGA

実施事業・例会
7月例会
「心育む家庭の在り方～子どもは見る僕らの背中～」
次世代育成事業
「子どもチャレンジカップ ～できたがつくる！明日のできる！～」
11月例会「家族交流例会」

近年、子どものいじめや不登校、少年犯罪、親による児童虐待等が深刻な社会問題として多く見受けられます。現在では、単身赴任や共働きの家庭環境の増加に伴い、子どもに愛情を注ぐ時間が少なくなっています。また、少子化により、コミュニケーション力を育てる場が減少し、自主性や社会性が育ちにくい環境にあります。子ども達が健全に育つために、家庭と地域社会が一体となって子育てする市民意識の醸成が必要です。近年、少子化やSNSの発達により、子ども同士で遊ぶ機会が減り、仲間関係の形成や規範意識の形成など社会性の発達に悪影響を与えています。我々は、子どもたちの多様性を尊重した遊び、学びの場を設えることでコミュニケーション力の向上や自己肯定感の向上を計ります。また、核家族化が進行したことで地域社会のつながりが弱くなり、子育て中の親は子育てに関する知識や技術が不十分なまま子育てをしなければなりません。親同士で情報を交換し、助け合うネットワークを構築することで、子育て不安やストレス軽減、子育

ての過重な負担を軽減していきます。現在、日本の子ども達の自己肯定感が他国の子どもたちに比べて低いとされています。自己肯定感は、人が自信を持って生きていく上で一番の土台となる大切なものです。人生のあらゆる面を豊かにするために、自己肯定力の底上げを子育てする親や教育関係者とともに学ぶ場を設ける例会を開催します。また、親子関係をより深くするために、次代を担う子どもたちが、青年会議所活動に触れ、父や母の地域に対する想いに共感し、将来、自らも目的を持って行動できる人材になる例会を開催します。次世育成委員会は、子どもたちの心の体幹の強化を図り、自分に自信を持ち、仕事、家族全ての人間関係に良い影響を与える社会人になれるように育成します。また、メンバーが、それぞれの家族を大切にしながら青年会議所活動に邁進できる一年にします。



委員長
岩田 貴司
TAKASHI IWATA

実施事業・例会
6月例会「新たな挑戦」模擬対話集会
七夕ブロードウェイ2019
～星空のキャンパス～
活性化ネットワーク事業
「ジャックブレイス！！～広げよう、私のドリームマップ～」

地域活性化の良い循環を生むためには、次代を担う若者達が運動に取り組む必要があります。しかし、都会の利便性に勝る地域の魅力や生活の安定性を見出す事ができなければ、若者は県外に流出し地域活性化の原動力は減退していきます。そのため、我々が他地域に対して誇れる大分の魅力を創造する過程を見せ、若者が自主的に地域活性化に取り組む必要性や楽しさに気づき行動する事で、地域の持続的な発展に繋がります。近年、我々大分青年会議所では、大分市最大のまつりである大分七夕まつりにて2日目のフィナーレを担い、大分市民が笑顔になる企画を行って参りました。本年度は、後世に引き継がれる新たなまつりの核を定義すると共に、我々の運動を力強く発信し、認知度を向上させるため中期計画を作成します。そして、大分市と連携して、フィナーレに加えて他地域にはない市民47万人が一体とされる大分七夕まつりを構築することで、魅力溢れる郷土大分の活性化へと繋げてまいります。また、10年目の大きな節目となりますおおいた活

性化ネットワークでは、我々が今まで培った多くの人脈や学生の柔軟な発想と行動力を活かし年間計画を作成します。さらに、未来を担う若者が地域を直に支える人財になるように、青年会議所が大分の企業や人財を知るサポートを行い、おおいた活性化ネットワークが主体となり、若者が自発的に大分で暮らしたいと思えるように促していきます。学生が地域の魅力や問題をもとに実体験を積みこくことで、次代を切り拓く先駆者として当事者意識を持ち、自発的に行動する事で大分の魅力を発掘し、自らの手で次代を切り拓いていけるように成長を促します。地域活性化委員会は、我々がまずは先導者となり、市民一体となる事ができる新たな大分七夕まつりを構築します。また、次代を担う学生と年間を通じて地域に向き合い、地域活性化の必要性や手法を学び、共に成長し次代を切り拓く先駆者となります。

MEMBER

委員長
曾我 公輔
副委員長
松元 隆彰
村岡 大輔

委員
天本 慎一郎
小野 峻助
佐藤 康孝
秦 豊
永田 磨紗則
長野 恭平
如法寺 雅俊
持永 英宏

MEMBER

委員長
岩田 貴司
副委員長
岡村 申弥
栗林 正英
宮本 健太郎

委員
安部 光正
甲斐 健
佐藤 圭吾
出口 宣佳
手島 栄俊
三浦 聡
峯野 耕一
藤田 剛士



組織循環戦略会議

6月例会「新たな挑戦」全国大会対話集会



議長
喜多嶋 勇介
YUSUKE KITAJIMA

「明るい豊かな社会」を目指し我々は事業を立案し、メンバーと議論を重ね運動を構築しています。運動が成功することで得られる達成感は幾度と積み上げられますが、どれだけ良い運動を展開してもその意義が市民に広まらずに終わることは大分青年会議所の真価が発揮できていないと言えます。今こそ我々が行う運動をこれまで以上に力強く発信することで戦略的に大分青年会議所の価値を高めるブランディングが必要です。

我々が行う活動・運動内で発信の機会を活用するため、新年互礼会や納会では来賓や先輩諸氏に活動・運動を強く伝えるとともに、今以上に連繋を強めるようおもてなしに力を入れます。関係各所や市民の方々に我々の運動を理解してもらい発信の連鎖を引き起こしながら大分青年会議所の価値を向上させるため、1年を通しての広報戦略を立案し実行します。我々自身が大分青年会議所の魅力を改めて実感し今まで以上に多くの方々への存在感を増幅させ、より身近に感じてもらうようブランドの確立を目指します。

本年度、先輩諸氏の「いつかは全国大会を大分で」という長年の想いへの挑戦を始めます。全国大会がこの大分で開催されるということは未だ多くのメンバーにとって想像しにくいことかもしれませんが、これまで想いを込めて運動を展開してきたJAYCEEの集まりである大分青年会議所であればさらに市民や行政と一体となり、この大分に最大限のインパクトを与えることができると考えます。これまで我々が青年会議所で培った全てを、全力を込めて大分から発信する場の創造に向けて一致団結して大分への全国大会誘致を目指します。

組織循環戦略会議は、運動を展開し満足感を得るだけに留まらず、積極的かつ効果的に運動を発信し市民や行政とともに大分に力強い変化をもたらします。大分青年会議所の魅力を多くの方々に実感していただき、ブランディングの確立を行い新しい挑戦へと次代を切り拓いて参ります。



卒業式、納会、卒業生送別パーティー



筆頭副議長
秦 裕太郎
YUTARO SHIN

実施事業・例会
1月例会、新年互礼会
6月例会「新たな挑戦」全国大会対話集会
卒業式、納会、卒業生送別パーティー

我々の運動は地域をより良く変革することで「明るい豊かな社会」を実現するためにメンバー全員が議論し、企画・実行しています。しかし、その意義が社会に広まらなくては真価が発揮できたとは言えません。かつて総会で全国大会に向けての決議をとりました。大分青年会議所と大分がこの先更なる発展を遂げるために、メンバー全員が全国大会というひとつの方向を向き、社会に青年会議所の運動を強力に発信し、大分の礎になる覚悟が必要です。

大分の魅力と大分青年会議所の運動を最大の力を持って社会に向けて発信し、我々メンバー全員が更に成長していくために、いよいよ全国大会誘致への挑戦を始めます。まずは、全国大会を大分で行う意義と意味を大分青年会議所の全メンバーに理解していただき、その必要性を訴え、全メンバーの想いのベクトルを同じ方向に向けていきます。そして、全国大会を大分で行うために必要な情報を得、各地からの積極的な協力を実現するために大分県内のみならず様々な地域に赴き、誘致

に必要な準備を進めて参ります。さらに、大分青年会議所のこれからをご来賓や先輩の方々に正確に伝え、今以上に強い連携を築き上げていくために新年互礼会・卒業式・納会を企画実行します。大分青年会議所の価値を今まで以上に市民や関係各所に伝えていくために、大分青年会議所が今以上の存在感を放ち、地域への貢献が市民に届くようにするために年間での広報計画を企画・立案し戦略的に実施しブランディングをはかります。そして今まで続けてきたSNSや各種事業での情報発信をブランディングの観点を持って行う運営を目指します。

組織循環戦略会議は、大分青年会議所メンバー全員がひとつの塊となるために自分たちが率先して動くことで組織を牽引しメンバー全員を同じ方向に向け第71回全国大会を大分に誘致し、大分青年会議所の魅力を多くの方々に実感していただき新しい挑戦へと次代を切り拓いて参ります。

MEMBER

筆頭議長

秦 裕太郎

副議長

原 ジェームス
姫野 靖之

委員

大塚 大輔
後藤 真也
塩地 俊宏
高橋 宏行

長尾 麻衣子
早川 泰生
山口 裕也

倉橋 芳英
出向理事